

つなぐ

Tsunagu

第6号

2018年6月発行

文責・編集・発行
八幡市社会福祉協議会・ボランティア活動センター
問い合わせ TEL075-983-4450/FAX075-983-5798
ホームページ <http://www.yawata-shakyo.or.jp/>
住 所 八幡市八幡東浦5番地

第9回 みんなで創る 福祉のつどい 開催しました!

5月19日(土)
市役所前広場・
文化センター



人と人の交流を通して、住み慣れた場所で幸せに暮らせる地域の実現を目的に本イベントを開催しました。紙ヒコ
ーキ大会や福祉体験コーナーなど子どもから大人まで楽しめる催し物を、団体と協力しながら企画してきました。
当日は大勢の市民に集まっていただき、大盛況でした。



イベント・講座情報

点訳ボランティア養成講座

視覚障害者が指で触れて、読む文字が「点字」
です。アイウエオの50音など基礎を
学んでもらいます。

日 時：7月11・25日、8月8・22日、
9月12日・26日、10月10・24日
(いずれも水曜日)
13:30～15:30

場 所：八幡市福祉会館
対象者：八幡市在住・在勤・在学の方
参加費：無料

お申込：八幡市障がい福祉課へお問合せください
075-983-1111(代)まで、6月29日(金)メ切

協 力：京都府視覚障がい者協会八幡支部
八幡市点字サークル「さわらび」



情報求む

ボランティア・市民活動に関する
イベント・セミナーの告知情報を常時、
お待ちしております。
どしどしお寄せください。

各種情報は電話・FAX・
ホームページの専用フォームから
お申し込みください。

※受付・掲載有無について、八幡市ボランティア活動センターからは
連絡しません。
※申し込み＝掲載確定ではありません。誌面に限りもあり、ご希望に
添えない場合があります。
※掲載された場合は、八幡市ボランティア活動センターから、問い合わ
せや申し込み状況などの反響についてお尋ねする場合があります。
※情報はホームページに掲載する場合もあります。



ボランティアに関する相談受付中

ボランティアは、施設や地域社会をより良くするパートナー

ボランティア活動センターでは、ボランティアをしたい人とボランティアを必要としている人をつなげるサポートを行っています。ボランティアを必要と感じておられる施設職員の方がいらっしゃれば、一度センターにご相談下さい。

ボランティアは……

職員とはちがう力を発揮

レクリエーションや会話の中で、ボランティアに関わることで、普段の生活では体験できない時間をいっしょに過ごしていただけます。

地域の懸け橋に

施設の取組に関わることで、施設のことをより多くの地域の皆さんに知っていただくことができます。



例えばこんなかわり方があります

- ・日常生活の中で利用者の方へのお話し相手や、レクリエーションのお手伝い。
- ・夏祭りなどの単発の行事やイベントの運営に協力していただき、一緒に盛り上げていただく。

※ご希望によっては、HPや情報誌「つなぐ」でボランティア募集のお手伝いをさせていただきます。

突撃レポート!

笑顔の輪 手話ビュースタジオ

八幡市手話サークル 八望



設立:昭和51年5月
代表:田中みさ子
日程:毎週木曜日
場所:福祉会館



①活動内容は?

ろう者の指導で手話を学びながら、市の文化祭でのバザーやクリスマス会などのイベントでろう者とサークル員の連帯感を深めています。

②活動を始められたきっかけは?

八幡市にろうのご夫婦が転居して来られ、市役所で手続きをする際に手話ができる人が少なかったので手話を広めようと、市職員と共に立ち上げました。

③活動していて感じたことは?

ろう者と楽しく交流して、手話の魅力と奥深さを感じています。(サークル員)

手話を指導しながら、手話でコミュニケーションできる人が増えていくのがうれしいです。(ろう者)

④最後に、今後の目標を!

八幡市において、一日も早く手話言語条例が制定されるように、これからも活動を続けていきたいと思ひます。

話そうよ



設立:平成22年4月
代表:坂本恵美子
日程:毎月第1木曜日
場所:福祉会館



①活動内容は?

八幡市失語症の会「はなそう会」で、失語症の方と一緒に合唱やゲーム、年に数回はお出かけしたりしています。

②活動を始められたきっかけは?

地域の方から失語症の方が集まれる交流の場がないか、市役所に相談があったことをきっかけに、失語症の会「はなそう会」が設立し、それに伴い失語症の方と一緒に活動するボランティア団体「話そうよ」が設立しました。

③活動していて感じたことは?

皆さんに楽しみにしていただき、喜んでもらえることが自分の励みになります。(ボランティア)

いつも活動を楽しんでおり、また当事者同士で交流できるので、リラックスして参加できます。(当事者)

④最後に、今後の目標を!

失語症についての認知度を高め、1人でも安心して自由に外出できる社会を作りたいです。